

平成 27 年度「ともに学びつながる図書館これからの図書館」報告書

目的

多様化する図書館のあり方をいろいろな視点から学び、市民、図書館職員、行政職員、市議会議員がともに学び、市民の共有財産である図書館のあり方を共に考えるきっかけとなるような事例を学ぶ。

司書の視点

- 1.開催日 27年11月14日(土)
- 2.講師 巽照子氏(日本図書館協会理事)
- 3.テーマ 「これからの図書館」
- 4.参加人数 29名
(市議会議員6名、職員3名、市民20名)
- 5.内容 図書館先進都市である滋賀県での取り組みを聞く。併し7館になった図書館をそれぞれ特色づけて運営している事例を聞き、市内5館ある分館について考える。

行政の視点

- 1.開催日 28年2月6日(土)
- 2.講師 南昌則氏(八尾市立図書館館長)
- 3.テーマ 「まちづくりの中核施設としての図書館の役割とは」
- 4.参加人数 25名
(市議会議員2名、職員3名、市民20名)
- 5.内容 行政の視点から、経営戦略を練りながら図書館を運営している現役の図書館長に話を聞き、豊富な行政経験から横のつながりを活かし利用者を増やしている事例を聞く。

学識経験者の視点

- 1.開催日 28年3月5日(土)
- 2.講師 山本健慈氏(和歌山大学元学長)
- 3.テーマ 「いま改めて公共図書館を考える！」
- 4.参加人数 42名
(市議会議員3名、職員7名、市民32名)
- 5.内容 学識経験者の視点から大学、保育所運営に関連させた図書館の話の聞き、社会教育の視点で図書館を考える。その後、市民3名と講師のパネルディスカッションで市民の図書館に対する思いを聞く。

演出家の視点

- 1.開催日 28年3月14日(月)
- 2.講師 花井裕一郎氏(演出家・NPO オブセリズム)
- 3.テーマ 「みんなでわくわく図書館にしたいなあ」
- 4.参加人数 30名
(市議会議員1名、職員10名、市民19名)
- 5.内容 世界で行ってみたい図書館ベスト15に選ばれた小布施町立図書館の初代館長に演出家の視点で市民が利用したくなる図書館の取り組みを聞き、ワークショップでは、自分たちで何が出来るかを話し合う。

参加者の声

- ・問題意識を持ち、常に向上心を持つ必要性をどう共有していくのかの参考になった。
- ・学ぶ自由・語り合う自由は守るというのではなく、勝ち取っていくというような世の中になっていると思った。
- ・図書館に限らず様々な問題の根は同じだと感じた。「連携」し、住みよい岸和田になればいいと思う。
- ・考えが多様化しているので、それぞれを認め合いながら人と人をつなぐ活動を考えていきたい。

成果 昨今、図書館を取り巻く状況が大きく変わり、今後のあり方が問われてきている。武雄市ではTSUTAYAを運営する会社が図書館の指定管理者となり話題となった。運営のあり方に答えはない。岸和田市の図書館の明確なビジョンを共有し描くために共同学習を4回開催した。20代から70代までの幅広い層の参加があり、今後も共同学習を続け、自分たちの活動にも生かしていきたいという市民が3倍に増えた。次年度は学んできたことを深く掘り下げ、自発的な共同学習に取り組んでいきたいと考えている。